



平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	集落支援センター創設プロジェクト
対象地域	島根県邑智郡邑南町口羽地域
活動概要	集落を超えた広域なエリアでの住民の自主組織である「集落支援センター」を設置し、地域住民の生活支援サービスや耕作放棄地の対策等、住民ニーズに対応した様々な社会実験を行うことを通して、地域コミュニティの創生と自立を図る。
今年度の主な取組	<p>地域の自立にかかる各種の課題解決のために、地域住民や地域づくりの専門家等が中心となってサポートする組織である「集落支援センター」の取り組みを試行し、その有効性を検証する。</p> <p>①高齢者世帯への聞き取り調査等による地域ニーズを把握した上で、高齢者世帯や集落の生活支援活動を実施する。</p> <p>②鳥獣被害防止柵の設置や、和牛放牧雑草管理等の里山空間の維持活用を実施する。</p> <p>③地域出身者へのPRや体験交流イベントの実施等、都市との連携協働活動を実施する。</p> <p>④以上の活動の成果を踏まえ、「集落支援センター」の有効性を検証する。</p>
活動結果	<p>①高齢者世帯への聞き取り調査、生活支援活動 おむね75歳以上のみの高齢者世帯130世帯を対象に悉皆調査を行い、107世帯のデータベース化を完了した。具体的な“支援メニュー”を整理することができたこと、重要な地域資源である農地について、GISの仕組みと取り込んだ“農地一筆マップ”を作成できたことは大きな成果である。悉皆調査の結果からも、農地の保全・管理に関わる支援が最も必要とされていることがわかり、今後の支援策を打っていく上で重要な情報収集ができた。</p> <p>②里山空間維持活用 牛放牧による雑草管理は、予想以上の成果を得ることができた。今回の手法で人手では管理できない奥地の農地を粗放的に管理できる見込みもたつた。また、農業関係支援事業と併用していくことでセンターの運営資金の確保にもつなげられる可能性もでてきた。特に、谷間の棚田や山頂付近の小規模な田、圃場整備が行われていない田は貸し出ししても引き受け手が見つからず、耕作放棄地はこのような条件不利地から拡がっていく。このような農地に和牛を放牧して雑草管理する手法は高齢者にとっても無理のない方法である。</p> <p>③都市との連携協働活動 都市との協働連携を進めていく上で、最も良き支援者となりうるのは、ふるさと出身者である。今回、出身者会と連携した体験型交流イベントを実施したことで、協働体制と信頼関係が確立されつつある。また、「ふるさと米の食料供給協定」や「和牛オーナー制度」にも積極的な声があがり、今後も交流を深めつつ、支援センターの基幹的収益事業の一つになる可能性が高まった。</p> <p>また、広島市の市民団体との交流イベントも継続的に実施していく流れができた。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>高齢者世帯訪問聞き取り調査は、ただ単に生活実態を把握するだけでなく、独居老人にとっては久しぶりに会話を楽しむという副次的効果もあり、様々な情報を提供してくれて統計データからは見えない本当に必要な課題を把握することができた。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真】 高齢者への聞き取り調査 和牛放牧による雑草除去・農地管理支援</p>
<p>応募団体名</p>	<p>集落支援センター創設協議会</p>
<p>リンク</p>	
<p>部局／担当者名</p>	<p>事務局長 小田 博之</p>
<p>連絡先</p>	<p>0855-87-0775 odah@hsnt.jp</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>邑南町</p>